

<p>『コシヒカリの出穂は平年並の見込み』 ～ め ざ せ 全 量 1 等 米 ～</p>	<p>巻農業普及指導センター</p>
---	--------------------

***** 重点ポイント *****

- コシヒカリの出穂は平年並の予想
- 1回目の穂肥はほ場ごとに草丈と葉色と幼穂を確認
- 8月の気象は平年並に暑い予報。追加の穂肥を検討
- 早生の出穂は平年に比べ2日程度早い見込み
- カメムシ類防除のため、畦畔除草と適期薬剤散布による防除を徹底

基肥一発施肥の場合も、
施用すると効果有り

1 生育状況

コシヒカリの生育は、草丈、茎数、葉色、葉数が指標値並になっています。コシヒカリの出穂期は、平年並と予想されます。

水稲生育調査結果（7月10日現在 巻農業普及指導センター管内調査データ）

品種名	草丈 (cm)		茎数 (本/m ²)		葉数 (L)		葉色 (SPAD)	
	本年値	指標比	本年値	指標比	本年値	指標差	本年値	指標差
コシヒカリ	69	103%	445	103%	11.3	+0.2	36.3	+0.8
こしいぶき	68	104%	540	110%	11.7	+0.2	40.1	+3.6

2 出穂期予想（コシヒカリが平年並、早生が平年に比べ2日早い場合）

<幼穂形成期・出穂期の予想と穂肥の目安>（コシヒカリを除き5月第1半旬田植）注1

品種名	幼穂形成期 (月/日)	出穂期 (月/日)	穂肥時期 (月/日) (出穂期前日数)		窒素施用量 注2 (kg/10a) 注3
			1回目	2回目	
五百万石	6/28	7/21	7/ 1 (20)	7/ 9 (12)	1.0~2.0
わたぼうし	6/28	7/21	6/29~7/ 1 (22~20)	7/ 9~7/11 (12~10)	2.0~3.0
ゆきん子舞	6/30	7/23	6/28~6/30 (25~23)	7/ 9 (14)	5.0~6.0
こしいぶき	7/ 2	7/25	7/ 2 (23)	7/11 (14)	2.0
こがねもち	7/20	8/ 2	7/15~7/18 (18~15)	7/23 (10)	1.0~3.0
連休植 コシヒカリ	7/13	8/ 5	7/18~7/21 (18~15)	7/26 (10)	1.0~3.0
5/10以降植 コシヒカリ	7/15	8/ 7	7/20~7/23 (18~15)	7/28 (10)	1.0~3.0
直はコシヒカリ 注4	7/19	8/11	7/24~7/27 (18~15)	8/ 1 (10)	1.0~3.0

注1: 幼穂形成期・出穂期予想は、天候により前後するので、幼穂や生育状況をよく確認する。

田植が5日前後すると幼穂形成期・出穂期は1~2日前後する。

注2: 窒素施用量は、2回の合計施用量

注3: 砂壤土などの地力の低いほ場では、1kg/10a程度多めに施用する。

注4: 5月第一半旬播きのカルパーコーティング

3 今後の気象 7月下旬から8月の気温は高い傾向 (新潟地方気象台1ヵ月予報、3ヵ月予報)

○7月の気象予報では7月下旬の気温が低く、降水量が多く、日照時間が少ない傾向で、7月20日以降は、平年並に暑くなる予報です。また、3ヶ月予報では、8月は平年並に暑い傾向と予報されています。

4 穂肥の考え方 1回目の穂肥は草丈と葉色、幼穂を確認。追加穂肥(3回目)の準備を!

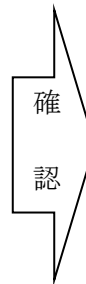
(1) コシヒカリの穂肥診断 ~穂肥時は幼穂を必ず確認し適期に穂肥!~

1回目穂肥時の生育量の目安

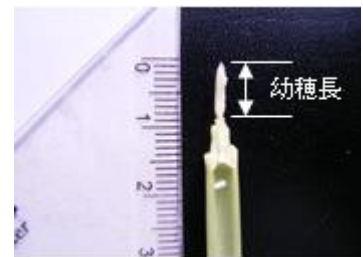
	コシヒカリ(出穂前18日)	注意点
幼穂長	1 cm	これより長草・茎数多・葉色濃い場合は、遅めの穂肥とする。
草丈	75 cm	
葉色	33 (SPAD値)	

幼穂長と出穂前日数(コシヒカリ)

出穂前日数	幼穂長
30日前	0.02 cm
24日前	0.1 cm
20日前	0.2 cm
18日前	1.0 cm
15日前	3.0 cm



[幼穂の確認方法]



※写真は1cm(コシヒカリ)

(2) 穂肥のポイント

ア 1回目・2回目の穂肥

- 1回目の穂肥施用は上記の草丈、葉色を確認し、施用時期、施用量を決定する。
- 2回目の穂肥は確実に施用し、後期栄養の確保に努める。

イ 追加穂肥(一発基肥栽培の場合も検討)

- 8月は平年並に暑いと予報されており、高温下での登熟が予想されるため、出穂期3日前までの施用を検討する。

出穂期の止葉葉色の指標値

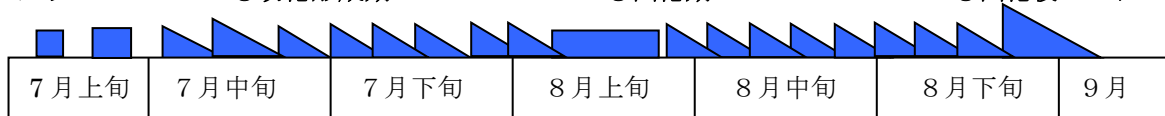
	葉色板(単葉)	葉緑素計(SPAD)
出穂期目標	4.2	32

◎出穂期の葉色が指標値を下回ると予想された場合、窒素成分1kg/10aを出穂期3日前までに施用する

5 水管理 ~早期落水厳禁。品質重視の水管理を徹底!~

- コシヒカリの葉色が濃いほ場では、幼穂形成期まで間断かん水とする。
- 幼穂形成期以降、出穂後25日までは確実に飽水管理を継続し、登熟向上を図る。
- 異常高温や強風フェーンが予想される時は、予め湛水し、障害の発生を防止する。
- コシヒカリは、8月末まで飽水管理とし、最終かん水は十分に湛水し登熟期後半の土壤水分を保持する。

●コシヒカリ ●幼穂形成期 →→→→→ ●出穂期 →→→→→ ●出穂後25日



4 斑点米カメムシ害虫防除 ~コシヒカリでも斑点米注意~

- 除草: 農道・畦畔の草刈りを必ず行う。雑草が結実しないようにこまめな雑草管理を行う。
本田内のヒエやホタルイはカメムシの増殖場所となるので、本田除草も徹底する。
- 本田: 本田防除は出穂期~出穂期10日後頃に全面散布を行う。
水面施用剤は、水深3cm程度の浅水条件で散布し、散布後は飽水管理を徹底する。
※無人ヘリの防除日が出穂期から10日以上離れる場合は上記防除を追加する。
※薬剤により散布適期・回数が異なるため、薬剤の使用方法を確認すること。